

平成30年度「幼児の体験活動指導者研修会」 ～幼児教育・保育における体験活動の仕組み方を考える～ 平成30年10月27日（土）

【目的】 幼児期における体験活動の重要性について実践事例をもとに理解を深め、実習を通して自然体験活動の内容や指導方法を学ぶ。また、学んだことを各園で実施する体験活動に役立てる。

【参加者】 幼稚園、保育園、認定子ども園の教諭、保育士・青少年教育施設指導者 11名

【講師】

山口大学教育学部附属幼稚園 教諭 高田 和宜 氏
国立山口徳地青少年自然の家 事業推進係 益田 美恵
企画指導班 小山 由紀穂

【内容】

9:30 開講式

9:30 (1) 講義『幼児期における体験活動の教育効果について』

～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から体験活動を考える～

実習①『幼児に発見と驚きをもたらす山歩きの仕組み方』

講師 山口大学教育学部附属幼稚園 教諭 高田 和宜 氏

11:00 (2) 実習②『自然物の特徴を生かしたクラフト紹介 ～木の実や枝など、特徴を生かして物語の世界を作る～』

国立山口徳地青少年自然の家 益田 美恵

12:30 (3) 実習③『ブュッフェ形式を使った幼児の食育指導の紹介 ～食事のバランスを考える最初の一步～』

国立山口徳地青少年自然の家 小山 由紀穂

13:30 (4) 実習④『幼児期の体験活動の仕組み方 ～幼児を主体的に活動させる回遊遊びの場づくり～』

～16:00 (1) 失敗しない焼芋づくり (2) 回遊遊びに導く園庭の一工夫 (3) 園庭に様々な遊び場を創り出すロープワーク

講師 山口大学教育学部附属幼稚園 教諭 高田 和宜 氏



【高田先生・「10の力」の講義】の後、関係する実践事例を実習で学ぶ。



【実習 発見・驚きの山歩き】晩秋の森を歩きながら、子どもに発見と驚きをもたらす声かけの例について学ぶ。



【実習 失敗しない焼芋づくり】おいしくなる仕込み方を学ぶ。大切にしたいのは、楽しむ気持ち！



【実習 自然物を使ったクラフト】年輪の上で、物語がどんどん生まれ作られていく。



【実習 回遊遊びの場をつくる】空間の区切り方、ロープの設置などの実践からのアイデア事例を学ぶ。



【受講後アンケートより】

○講義、実技の両方があることで、学びの内容がより実感できました。また、わかりやすく、おもしろく、本当に勉強になったのですが、「楽しかった」というのが一番に感じていることです。
○いつも見ている材料から工夫して新たなものを作り出すことは難しかったですが、また、そこが楽しかったです。
○実例が多く楽しく学べました。園に持ち帰り、子どもたちと実践してみようと思います。
○どの体験も興味があるものばかりで楽しかったです。自然を生かして遊べる活動をもっと知りたいと思いました。

【成果】

幼児教育・保育に携わる多忙な先生方に、自然体験活動の楽しさを実感していただくことを第一のねらいとし、実習中心の研修としました。また、体験活動の教育効果の理解を深めていただくため、実習の内容に関連した「10の力」についての講義を交えた構成としました。これらのことから、「各園に戻って、体験活動を実践すること」を研修の大きなねらいとしています。参加された先生方からは、「楽しさを実感できた」「子ども達に体験させたい」との感想をいただきました。

【課題】

先生方のニーズと本講習の内容が合致していたかを講習後アンケートから分析し、学んだことが現場に生かせる講習を目指して、次年度の内容を検討していきます。

【今後の展望】

このような指導者講習で、先生方に体験学習の効果を実感していただき、各園で体験活動を取り入れた教育実践を増やしていただくことを目指します。
また、プログラムを体験された先生方からご意見をいただき、本所の「幼児の体験活動」プログラムの改善を進めていきます。